



2017.11.13 News 大震災後のネパールを訪問

2015年4月25日の大震災から2年半。復興は進んでいないとのインターネット情報もあったが、街は平穏で活気がある。

ネパールは、王政から共和制へ2008年に移行したばかり。前回2012年に訪問したときは、インフラ整備が進まず、連日、夜間の大半は停電。もちろん通信状況も不完全で通じなかった。が、今回驚いた。人口



2千万人にモバイル3千万。地域差、貧富差なく、老若男女みなモバイル生活。過疎地には移動式ATMが行く。今年、画期的なことは停電がなくなった。電力会社の総裁が変わっただけという。通信回線の改善も劇的。経済も改善。大震災も難なく乗り越える活力。中国が後押しする共産党とインドが後押しするネパール会議派が拮抗。もともとインドの文化圏だが、強兵グルカのおかげで、植民地にならず、逆にグルカ兵を旧英連邦へ提供してきた。英語は小学校から教えている。今回のガイドは、日本留学後、教師から日本語ガイドに転じたプラカシュ・パウデル氏36歳。彼の子供時代、外国人といえば、アメリカ人か日本人しか皆知らなかったという。今もネパールは、大の親日国だ。



アンナプルナ・サウスを背にプラカシュ・パウデル氏。ガイドの「日本語名」一郎。バラモン系の父親からはいつも「勉強をきなさい」と言われてきたという。4人の仲間で設立した旅行会社は、2年後の大震災で全員脱落。借金して皆の出資を引き受け、軌道に乗せた。誠実で、知性があり、温かな性格だが、ガッツがある。

ネパールには鉄道がない。いま中国政府は、例の計画もあり、ネパールを東西横断する鉄道敷設を提案している。完成すればネパールの発展に大きく寄与することは間違いない。